2021（令和3）年12月

ピース・ウイング長崎 会報 へいわ

172号

公益財団法人 長崎平和推進協会
https://www.peace-wing-n.or.jp

■長崎は、核兵器廃絶への大航海を導く「北極星」だ　ー核兵器禁止条約発効から約1年ー
■ハワイとつなぐオンラインセミナー
■第11回 体験記企画展「浦上の記憶」
■長崎市社会福祉協議会表彰式　■平和案内人全体会
■「市民のつどい」　■被爆体験の深化講座「防空壕の話」
■被爆者の体験を受け継ぐために…研修等を頑張っています！
■来訪者コーナー　■会員の広場
■TOPICS!（伝承館「長崎特別展」 開催報告ほか）

展示の説明を行う髙村昇・伝承館館長

語り部による講話の様子

東日本大震災・原子力災害伝承館「長崎特別展」を開催しました。（詳細は8ページ）

長崎は、核兵器廃絶への大航海を導く「北極星」だ ―核兵器禁止条約発効から約１年―

長崎大学核兵器廃絶研究センター
センター長　吉田　文彦

令和３（2021）年1月22日に核兵器禁止条約が発効してから、まもなく一年を迎えます。

現在の核世界の動きや核軍縮の課題、長崎の果たすべき役割などについて、長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）の吉田文彦センター長に寄稿していただきました。

核兵器禁止条約（核禁条約）がほどなく、満一歳を迎える。この条約が発効したのが、2021年1月22日。あの興奮に満ちた日から、ほどなく1年が過ぎようとしているわけだ。近年の核世界の動きを振り返ったあと、核軍縮の課題、日本の進むべき道、長崎の使命・役割について少し考えてみたい。

米ロ中による核の三国志

世界を見渡すと…残念ながら全体的な傾向として核軍縮は逆風の時期に直面している。最悪なのは、冷戦時代を引きずるように核大国であり続ける米国とロシアが核兵器システムの近代化、換言すれば質的な核軍拡に巨額の資金をつぎ込む計画を進めていることだ。最も核軍縮に尽力すべき両国が大規模な質的な核軍拡に進むということは、核戦力をこれから長期にわたって温存する意図のあらわれでもある。米国内には「近代化することで（核兵器システムの信頼性を高められるので）核保有量を減らせる」と強調する専門家もいるが、そもそも本気で減らす気がなければ核軍縮が進むわけがない。国際的な影響力が縮小傾向にあるロシアは、存在感を示す拠り所としての核兵器への依存度を強めており、それが近代化に拍車をかけている。米国への対抗心だけでなく、中国への警戒心がこうした考え方の背景にある。

そして、中国である。米ロに次ぐ世界三位の核弾頭保有国である中国は引き続き核増強をはかっている。今年に入ってぞっとするようなニュースも流れた。米国国防総省がまとめた中国の軍事動向を分析した年次報告書が、現在約300発の核弾頭保有数を2030年までに1000発に拡大しようとしている可能性があると指摘したのである。冷戦時代から米国の国防総省は「最悪ケース」などを想定して、誇張された見積もりを出すことがしばしばあったので、この年次報告書が中国の実相を示したものかどうかは明確ではない。ただ、中国が自国の核政策についてあまり説明せず、不透明感が強いことが他国の疑心暗鬼を誘発している。米ロの核兵器システム近代化も、そうした中国の存在を強く意識したもので、核兵器をめぐる米ロ中の新たな競争は三国志さながらの権謀術数を想起させる。

このままでいいわけがない。誠実な核

軍縮交渉義務を定めた核不拡散条約（NPT）6条をあってなきがごとくに扱うのは、多くの非核兵器国に対する背信行為でさえある。どうすべきなのか。第一に、核禁条約発効から1年の2022年1月にニューヨークで開催されるNPT再検討会議で、米中ロを含む核保有5か国が核増強の悪循環から脱する方策を協議する場を設けるように約束させ、「核軍拡による安全保障」から「核軍縮による安全保障」への転換を迫ることだ。

日本にも核軍縮の大きな責任

次に、日本も含めた米国の同盟国も責任を果たす必要がある。米国の核兵器システム近代化の理由のひとつに、同盟国への拡大核抑止（核の傘）の約束をはたすためという点が含まれている。ならば、米国の同盟国も質的な核軍拡について「連帯責任」がある。NPT6条には、「締約国」が誠実に核軍縮交渉を行う義務が規定されているのであって、核保有5か国任せにすることなく、「核の傘」にいる同盟国ももっと条約上の責任を意識して、「核軍縮による安全保障」への転換を促し、思い切った核軍縮交渉につなげていく必要がある。

複雑に入り組んだ核世界においては、シンプルに、しっかりとした方向性を示す国際規範が必要だ。その意味において核禁条約の存在意義は極めて大きい。広島選出の岸田文雄氏は首相就任以前も就任後も核禁条約について、「（核兵器のない世界への）出口にあたる重要な条約だ」と言い続けている。日本政府はこの基本認識をNPT再検討会議でも強調し、出口に向けて、「核軍縮による安全保障」への取り組みを積極的に提案していくべきだろう。日本政府は核保有国と非核保有国の「橋渡し」役を自認しているのだから、3月に予定されている核禁条約第1回締約国会議に少なくともオブザーバー参加し、NPT6条の誠実な履行に向けた方策について、核禁条約参加国と意見交換するのが得策だろう。

長崎から発する不動のメッセージ

長崎にとって大切なことは何だろうか。核軍縮が逆風に直面している時には、被爆地の役割・使命が一段と大きくなる。核兵器廃絶を被爆地があきらめた時には、世界もあきらめてしまう。被爆地がうつむいてしまえば、国際社会の多くの人たちもうつむいてしまう。これまでがそうであったように、核兵器廃絶という方向を常にしっかりと見つめるのが被爆地の役割・使命であり、その輝きが北極星のように、核兵器廃絶に向けた数多くの船の大航海を助けていく。長崎から発するメッセージの基軸が不動であり続けることは、とても大切なことである。

▲カウントボード点灯式（2020年10月26日）
提供:長崎市広報広聴課

▲条約発効を喜ぶ長崎市民（2021年1月22日）
提供:甲斐一美氏

▲核兵器に見立てた風船を割る被爆者ら（2021年1月22日）
提供：甲斐一美氏

【吉田 文彦】

1955年京都市生まれ。
東京大学文学部卒、朝日新聞社入社。
2000年より論説委員、論説副主幹。その後は、国際基督教大学（ICU）客員教授、米国のカーネーギー国際平和財団客員研究員など。主な著書は、『核解体』『証言 核抑止の世紀』『核のアメリカ』。大阪大学にて博士号（国際公共政策）取得。
2019年度より、RECNAセンター長を務める。

戦争を知る世代と次代を担う高校生との交流

ハワイとつなぐオンラインセミナー

Hawaii Online Study Tour

当協会では長崎市から委託を受け、令和2年度より高校生をハワイへ派遣する「青少年平和交流事業」を行っています。新型コロナウイルス感染症の拡大予防のために今年度も渡航を断念し、オンラインでの実施となりました。

公募で集まった長崎の高校生9人は、まず長崎原爆や核兵器について学習した後、ハワイに関する学習として歴史・文化の他、ハワイへの日本人移民や、戦時下における日本人・日系人の強制収容と日系人兵士についてなど約2ヶ月間、事前研修を重ねました。

10月17日に開催したメインセミナーは、ハワイ大学スパーク・マツナガ平和研究所および現地教育機関リアル・イノベーティブ・コネクションの協力を得て実施。真珠湾の映像視聴や日本とアメリカ、2つの国でそれぞれ従軍した親戚を持つ日系人講師による講義の他、6歳の時に真珠湾攻撃を目撃したドリンダ・ニコルソンさん、18歳で被爆した築城昭平さんがそれぞれの体験を話しました。その後の意見交換では、参加者が家族の体験を話すなど、多くの意見が交わされました。また被爆者の体験をまとめた紙芝居を長崎の高校生が朗読し、ハワイの高校生ら5人と意見を交わしました。

最後には、ハワイからメッセージカードが贈られ、再会を約束して終了しました。

研修スケジュール

8/12	原爆資料館解説動画視聴、被爆体験講話
8/16	ハワイの歴史文化と多文化共生（講師：日本大学 原山浩介氏）
8/22	太平洋戦争下のハワイにおける「日系人」の強制収容・「日系人」兵士について（講師：日本学術振興会 秋山かおり氏）
9/11	世界の核兵器の現状、核兵器禁止条約・国際社会の取り組みについて（講師：長崎大学 広瀬訓氏）
9/26	ハワイとのプレセミナー
10/17	ハワイとのメインセミナー　この他にも紙芝居朗読、英語練習など

事業を通じて学んだこと、得られたことは？

これまで敗戦国側から見た戦争・被爆体験などの面から考える機会が多かったのですが、今回、戦勝国側から見た戦争や戦争の終結、日本から奇襲攻撃を受けた恐怖など、初めて知ることが多く、戦争についての新しい見方を得ました。

また、被爆体験を含めた戦争体験を伝え続けることの大切さを改めて実感することができました。戦争体験を語り継ぎ、次の世代に平和のバトンを繋ぎ続けることで、私たち若者が生きる時代やその後の未来世代の人たちが戦争によって心の傷を負うことなく、他人を理解し、愛することが出来る本物の平和を手に入れ、守り続けることが出来るのではないかという新たな考えを得られました。

濱﨑里奈さん（高校2年生）

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館
第11回体験記企画展

浦上の記憶

Memoirs of Urakami

11月19~28日、追悼平和祈念館交流ラウンジにおいて、第11回体験記企画展「浦上の記憶」を開催しました。

今回は、あの日を生きた4人の証言として、原爆で母を亡くしカトリック修道士となった小崎登明さん、山里国民学校6年生だった中村一俊さん、爆心地から400mの我が家へと焼野原を歩いた平山兼則さん、浦上天主堂裏に住んでいた深堀繁美さんの被爆体験記の他、追悼平和祈念館が所蔵する被爆体験記集（黒本）から、浦上や浦上天主堂に関連する手記を展示しました。

また今年4月に亡くなった小崎登明さんが記録していた日記、被爆体験講話を行うために収集していた資料などの遺品も公開しました。

11月20日には、関連イベントとして小崎登明さんの追悼トークセッションを開催し、小崎さんが所属していた聖母の騎士修道院修道院長の山口雅稔さん、取材で関わった渡部祐樹さんらが故人との思い出や受け取った思い、これからの意気込みなどを語りました。会場での参加の他、オンライン配信もあり、多くの方が聴講しました。

また会場には、4人の証言者の一人である中村一俊さん（当協会継承部会員）がご来場くださり、イベント終了間際にはご自身の被爆体験を語ってくださいました。一緒に来場されたご家族は、企画展見学後「大変な体験をしたんだね」と中村さんに感想を述べられていました。

「浦上の記憶」関連トークイベント　「終業10分前の出会い～登明さんの伝えたかった平和」

開催日：11月20日14時00分～15時30分

登壇者：山口雅稔氏（聖母の騎士修道院修道院長／カトリック本河内教会主任司祭）
渡部祐樹氏（NHK「心の時代」ディレクター）　榎本瑞希氏（朝日新聞記者）

司　会：横山理子（当協会職員）

平和案内人全体会

10月17日、平和案内人全体会を長崎原爆資料館ホールで開催しました。

今回は6月に当協会の理事長に就任した調漸理事長が、被爆後の救護活動や後遺症研究に尽力した祖父・調来助氏との思い出、被爆2世でもある自身が何故平和と核兵器廃絶について考えるようになったのかなどを話した他、これまで若者が核の情勢について学び活動する場を育成してきた経験から今後の意気込みを語りました。

この研修には平和案内人の他、継承部会などの部会員、朗読ボランティア「永遠の会」、家族・交流証言者なども参加し、約100人が聴講しました。

青少年ピースボランティアが表彰

長崎市社会福祉協議会表彰式

10月1日、令和3年度長崎市社会福祉協議会表彰式で青少年ピースボランティアが表彰され、メンバーを代表して山下豊さんが、馬場豊子会長より賞状を受け取りました。

平成14年度に活動を開始した青少年ピースボランティアは「平和に関するボランティア活動や学習等を通じて青少年の平和意識の高揚と被爆体験の継承に尽力」したとして選ばれました。

これからも原爆の実相や平和について学び、発信するボランティアとして、活発に活動していきます。

（青少年ピースボランティアは、長崎市からの受託事業です）

第6回 被爆体験の深化講座

「防空壕の話」

11月27日、継承部会・継承交流班の主催で「被爆体験の深化講座」を実施しました。

今回は防空壕をテーマとして、登壇した4人がそれぞれ、防空壕を掘った体験や、空襲時に壕内に避難した際の思い出を語りました。来場者にも被爆者が多く、被爆後しばらく壕内で過ごした経験を持つ一人は、その悲惨な数日間の状況を話し「思い出したくなかった」と心境を吐露しました。

また防空壕の大きさや、万才町周辺に掘られていた大きなトンネル状の壕についての質問も寄せられるなど、関心の高さがうかがえました。

国連軍縮週間行事

市民のつどい

10月30日、原爆資料館階段下広場で「市民のつどい」を開催しました。

今回も新型コロナウイルス感染症の感染予防として、被爆後の長崎を撮影した写真や当協会の事業等を紹介するパネルの展示、被爆者の証言映像や「千羽鶴」合唱動画等の上映が中心となりました。

長崎市が開催する平和大行進も参加者が制限されたこともあり、例年より来場者は少なかったものの、修学旅行生や放課後児童クラブの子どもたち、家族連れなど多くの方にお越しいただき、賑わいました。また鳩やハートの形のエコ風船配布も大人気でした。

来訪者コーナー

アルゼンチン共和国
ギジェルモ・ハント
駐日特命全権大使

11月4日、アルゼンチン共和国のギジェルモ・ハント駐日特命全権大使とマルシア・デ・カルバリョ・ゲハ大使夫人が追悼平和祈念館をご訪問くださいました。

大使は今年8月の平和祈念式典に参加できなかったことから、今回、平和関連施設やアルゼンチン所縁の地の視察のために来崎されました。平和公園や爆心地を訪れた後、追悼平和祈念館にもお越しいただき、原爆死没者名簿が奉安されている追悼空間で追悼の意を捧げていただきました。

芳名帳には「never again（二度と繰り返さない）」との力強いメッセージをいただきました。

被爆者の体験を受け継ぐために…
研修等を頑張っています！

交流会の様子

「語り継ぐ被爆体験（家族・交流証言）推進事業」では、被爆者の体験や思いを受け継ぎ、次の世代へ伝えていく活動を支援しています。

今年度も9月18・19日に交流会を実施し、被爆体験を「託したい方」と「受け継ぎたい方」が集まりました。新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から班に分かれての聞き取りを止め、今回からは被爆者が一人ずつ前に立ち、順番に被爆体験を話す形式としました。また一部の方はオンラインでの参加となりました。

交流会後、「受け継ぎたい方」は、どの「託したい方」の体験を受け継ぎたいかを選択します。10月からは、希望した「託したい方」の体験を更に詳しく聞き取る研修が始まりました。これからは聞き取った被爆体験から原稿を作成し、パソコン（PowerPoint）や話し方などの研修を重ねて、デビューを目指します。

研修生の一人で、埼玉県から参加する篠崎亜緒依（あおい）さんは「たった76年前の出来事。昔話にはさせない。“絶対に戦争はしてはならない”その理由をしっかりと受け継ぎ、次世代へ繋いでいきます」と意気込みを話しています。

また、被爆体験を託す池田道明さんは、「我々に残された時間は少ない。戦争がないこと、差別をなくすことが平和の原点。そこに重点を置きながら、私たちの体験を聞き取ってほしい」と願いながら、ご自身の体験や当時の生活などを研修生に話し、記憶を託そうとしています。

被爆体験の聞き取りの様子

●「語り継ぐ被爆体験（家族・交流証言）推進事業」は、長崎市からの受託事業です。

NO. 19

お便りをお寄せください！

平和推進協会では、会員の皆様よりお便りを募集します。会報をご覧になってのご意見、ご感想、お便りなど、会員の皆様の声をお寄せください。

E-mail：info@peace-wing-n.or.jp
〒852-8117 長崎市平野町7-8
長崎平和推進協会
「会員の広場」係

Peace Wing Nagasaki
会員の広場

ANT-Hiroshimaは、ヒロシマの経験と思いを生かした「世界の平和づくり」を目標に「考動」「協働」するNGOです。私、渡部朋子は代表を務めています。2021年10月30日に長崎で開催された「ワークショップ『世界のヒバクシャとともに』―支援のあり方を考える」では、長崎・広島の市民が協力して開催した「世界核被害者フォーラム広島2015」を踏まえて、世界の核被害者との顔の見える関係づくりの必要性について報告しました。当日は広島から4人の若者も参加しました。その後、若者たちは平和案内人の方に資料館他ご案内いただき、被爆者のお話を聴かせていただきました。私は広島、長崎、世界の核被害者が世代を超えてつながる努力を続けます。

ANT-Hiroshima
理事長　渡部　朋子

平和案内人と平和祈念像前で記念撮影

TOPICS！ へいわトピックス

朗読ボランティア「被爆体験を語り継ぐ 永遠（とわ）の会」定期朗読会　開催のお知らせ

追悼平和祈念館の被爆体験記朗読ボランティア「被爆体験を語り継ぐ 永遠の会」による定期朗読会を開催します。

今回は、被爆建造物等をテーマに朗読します。

日　時　2月27日（日）14:00～15:00

場　所　追悼平和祈念館 交流ラウンジ

【お問い合わせ先】追悼平和祈念館　095-814-0055

※追悼平和祈念館での実施の他、オンライン中継も予定していますが、新型コロナウイルス感染症の感染状況次第ではオンライン配信のみへ変更します。

東日本大震災・原子力災害伝承館「長崎特別展」を開催しました

12月3～19日、追悼平和祈念館 交流ラウンジにおいて「長崎特別展」を開催しました。津波が押し寄せる様子や、被災後の町の様子などの写真、震災の発生時刻で止まった時計など東日本大震災に関する写真資料の他、東京電力福島第一原発事故発生後の記録、防護服や放射線量を調べるホールボディーカウンターなど、東日本大震災・原子力災害伝承館が所蔵する資料約80点が展示されました。

開会式では、「事故は過去のことではない。福島のことを自分のこととして見てほしい」と髙村昇伝承館館長が挨拶しました。また福島県外で初めてとなる、被災者の「語り部講話」を3日間開催し、自らの体験の他、「安全な場所への移動と、情報が出たらすぐに避難。これだけは絶対に忘れないで」と伝えてました。

写真資料等を提供した番組が映像祭で優秀賞を受賞しました。

全国各地の優れたドキュメンタリー映像作品を顕彰する「第41回『地方の時代』映像祭2021」において、NHK長崎放送局、長崎ケーブルメディアの2番組が優秀賞に選ばれました。

この2番組には、当協会写真資料調査部会が写真資料を提供し、松田斉部会長が部番組内での解説等を行いました。関係者の皆様、おめでとうございます。

世界の核弾頭の数

	ロシア	米　国	中　国	フランス	英　国	パキスタン	インド	イスラエル	北朝鮮	合計
2021年6月1日	6,260	5,550	350	290	225	165	160	90	40	～13,130

長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）提供　https://www.recna.nagaski-u.ac.jp/

寄附者紹介

ありがとうございます

◎三根　眞理子　一七九、〇〇〇円（敬称略）
◎世田谷同友会　十万円
◎渡部　朋子　六千円
◎匿名（四件）　一二、〇八二円

会員数報告

◎維持会員　1、051名
◎賛助会員　166名
◎学生会員　14名

令和3年12月14日現在

賛助会員（団体・法人）の一覧は協会ホームページに掲載しています。

ご支援・ご協力誠にありがとうございます。

会員拡大にもご協力をお願いいたします。

会費納入のお願い

当協会の活動は皆さまの会費に支えられています。

今年度まだ会費を納めていただいていない方は、何卒趣旨をご理解いただき、先にお送りしている払込票により最寄りの郵便局で納入くださいますようお願いします。

お支払いただいた会費は、源泉所得税の税額控除の対象になります。詳しくは当協会ホームページをご覧いただくか、事務局までご連絡ください。

本紙は再生紙を使用しています。

令和3年12月23日発行

（公財）長崎平和推進協会　〒852-8117 長崎市平野町7-8　☎095-844-9922　FAX 095-844-9961